



② 研修方法

- ①の研修講座で、信州型UDカードの「No. 1 ねらいを明確にする」「No. 2 めりはりをつける」「No. 5 困っていると言える学級」「No. 9 素材研究と教材化」のうちの1つを用いて、**図1「信州型UDカードの構造」**を基に30分間研修を行った。

信州型UD 8つの窓口と 20の着眼点

I	タイトルに関する実践例に対して子どもの姿を想起する
II	前段の姿が生まれる理由を「子どもの視点」で掘り下げる
III	「子どもの視点」に立って自分の実践を見直す
IV	「子どもの視点」に立って見直した内容を交流する
V	心に留めておきたいこと、新たに試みたい実践などを記入する

図1 信州型UDカードの構造

③ 研修受講者

- 小学校教員 33名、中学校教員 25名、高等学校教員 12名、特別支援学校教員 3名

④ 受講者の様子や感想

- ・教壇に立っていると、つい忘れてしまうのが生徒の立場に立つ、ということです。随時、適宜、自らの教え方、授業スタイルを自分の視点で見直すのみならず、生徒がどう感じているかという視点でも見直すと良い授業につながると思った。
- ・子どもの視点で考えることは、とても大切なことなのになのに、いざ考えてみると、手が止まってしまった。日頃あまり意識できていないと反省した。
- ・子どもが考えを深めようとしていないのは、子どもがよく考えたいと思えるような課題設定を自分ができていないからだと思った。
- ・自分としては明確に指示が行えたと思っていても、生徒の様子や生徒の立場になって改めて考えると、まだまだ改善が必要だと思いました。
- ・信州型UDカードの内容を基に、話し合いの仕方について意見交換したグループで、A先生の『3人の知恵の輪』と称して、司会・メモ・発表とそれぞれが役割を分担して話し合い活動をする中で、子どもたち自身の力で話し合いを進めることができている」という話を聞き、感嘆の声が上が



高等学校国語基礎 UDカード研修の様子



小5・6年国語基礎 UDカード研修の様子

る場面があった。

- ・信州型UDについては、言葉を聞いたことがあるだけだったけれど、実際にやって先生方と交流してみて、自分の気付かないことだらけで勉強になった。ここを直せば、という見通しが持てた。毎日でもやってみたい。

## (2) 信州型UDカードを用いた学校での実践事例

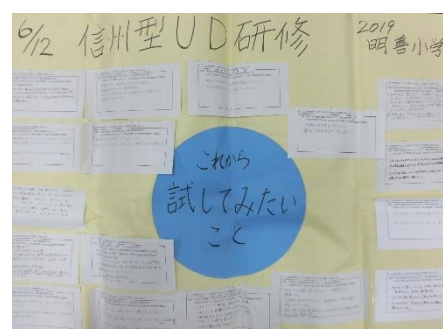
### ① 実践校 M小学校

### ② 実践内容

- ・職員会で短時間、信州型UDカードを用いた研修を継続的に行っている。
- ・研修に入る前に、まず、前回の研修の振り返りから入る。
- ・研修後に「これから試みたいこと」を一人一人が書き、模造紙に貼って職員室に掲示する。

### ③ 感想

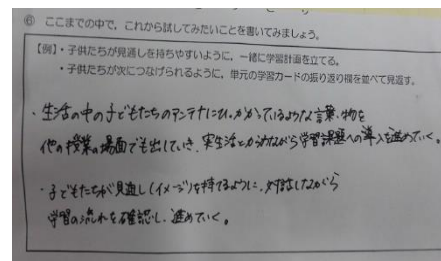
- ・子どもの視点に立って考えることで、自分の子ども観や指導観が変わった。
- ・(研修を通して)子どもの視点で考えることは新鮮で、目の前の子どもたちにどんなつまづきがあるのか、そして、そのような子どもたちに私たちは何ができるのかを、いろんな教科の場面で考えることの大切さに気付いた。
- ・学期ごと、今回のように実践に即した情報交換をしていきたいと感じた。



職員室に掲示した模造紙

### ④ 考察

研修後に書いた「これから試みたいこと」を模造紙に貼って職員室に掲示することで、職員が日常的に意識することができる。また、その後の取り組みについても振り返る時間を設けることで、授業改善の好循環を生み出していかうとするものであった。



職員が書いた「これから試みたいこと」

## (3) 信州型UDカードの活用のアイデア

### ① 研修の進め方のアイデア

- ・子どもの良い姿が見られた実践についても話題にし、それらに共通する要因から一般化できることを見出す。
- ・交流の場面で、見直した内容を書き出した付箋を使って交流し、書かれた内容によって付箋を分類・整理してまとめ、全体で共有する。
- ・交流の場面で、ワールドカフェ方式を用いて、各自でまとめた内容を1つのグループで交流した後、そのグループで話題になったことを別のグループを作って共有する。
- ・各グループに20枚すべてのカードを用意し、その中から各自が任意でカードを1枚選び、選んだ理由を添えて交流する。

### ② 動画教材や参考資料とともに活用するアイデア

実践事例や参考資料を紹介する動画教材や、参考資料として、教育課程編成・学習指導の基

本、信州教育の学びの基盤、信州 Basic（いずれも長野県教育委員会）等と合わせて活用し、着眼点に関わる知見をさらに広げ深める。



例 「No. 1 ねらいを明確にする」

「H31 教育課程編成・学習指導の基本 P 14、P 34～69」「信州 Basic P 7」

例 「No. 13 主体的な学びが実現できているか」

「H31 教育課程編成・学習指導の基本 P 6」「信州教育の学びの基盤 P 55～83」

教育課程編成・  
学習指導の基本

信州教育の  
学びの基盤

信州 Basic

(動画教材：長野県教育委員会HP 学びの改革支援課「信州型ユニバーサルデザイン」)

③ 研究授業で活用するアイデア

研究授業に際して、参観の視点を定める際に活用する。

例えば、子どもが学びを自覚できるような授業にしていきたいと考えたとき、信州型UDカード「No. 3 ねらいの達成を見とどける」の視点で授業や子どもの姿を見てもらい、研究会でこのテーマを協議の柱に据える。

④ テーマについて各自が実践した後、成果を共有するアイデア

信州型UDカードにある着眼点に関わって、全職員がそれぞれ何日間か実践する。その後、カードを使って情報交換をする。

例えば、「主体的な学び」に関わる知見を広げ深めるために、1ヶ月間、先生方のアイデアを活かして実践してもらい、その成果を「No. 11 主体的な学びが実現できているか」のUDカードを使って共有する。

⑤ 教師の意図と子どもの意識とのズレに気付く模擬授業のアイデア

図2のように、教師が意図したことと子どもの意識とにズレが生じる可能性があることを、模擬授業を通して体験してから信州型UDカード研修に入る。

例えば、「No. 2 めりはりをつける」のUDカードを扱う前に、模擬授業としてグループ追究の場面で、教師が自分で課題設定をし、グループ追究の手順や方法を口頭で説明してグループ追究に入るように指示する。この時、子どもの側に立

ってみて、子どもはどのような意識になるかを体験する。その後、教師、子どもそれぞれの側から何を行ったか、何を考えたか、何を感じたか、膨らんだ願いは何かを視点に模擬授業を振り返る。

このように、模擬授業のリフレクションを通して、教師が意図したことと子どもの意識とにズレが生じる可能性があることを体験してから信州型UDカードを扱い、自分の実践を子どもの側に立ってみて見直していく展開も考えられる。

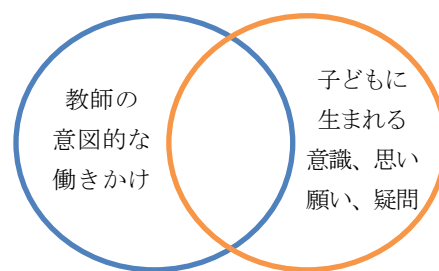


図 2

### 3 成果と今後の展望

研修講座の中で信州型UDカードを用いた研修を行い、その時の受講者の様子や感想を分析することで、いくつかの信州型UDカードの活用案が見えてきた。

今後の展望として来年度は、これらの活用案を研修講座の受講者に発信することを通して、効果的・効率的な校内研修を支援していきたい。